

障害者の自立に一役

作業所「夢屋」開設1年

一の宮町

「きありがたい」と喜んでい
る。
運営は売上金と、昨年二
つの民間の財団から受けた

助成金でやり繰りしてい
る。
夢屋代表の宮本さんは
「今は手伝ってくれる人に
支払うお金も出せず、行政
からの助成が不可欠。将来
は障害者たちが作業所で活
動しながら共同生活もでき
る場所をつくっていきたく
い」と話している。



オープン1周年を迎えた夢屋

障害者と健常者が地域で
共に生きることを目指した
阿蘇郡一の宮町宮地の小規
模作業所「夢屋」が、オー
プン一周年を迎えた。障害
者たちは、パン販売や喫茶店
の営業に取り組んでおり、
「落ち着ける場所が見つか
った」と喜んでいる。

夢屋は自閉症の下原猛さ
ん(この自宅一階約百平方
メートルを猛さんと家族、元小学
校教師の宮本誠一さん(三五
)らが一年がかりで改築、昨
年四月に開設した。木目を

生かしたおしゃれな喫茶店
で、チーズ、クルミなどが
入った八種類の手作りのパ
ンを販売している。

現在は、猛さんのほか障
害をもつ人らや家族約十人
が利用している。知的障
害の男性(四)は「仕事をし
たのは初めて。いろんな話
ができる仲間やお得意さん
がいて安心できる」と言っ
て、知的障害の女性(二)の母
親(五)も「地元知り合い
が少ないので、娘の障害や
悩みについて話すことがで